会　議　要　旨　書

会議名	第５期三鷹市生涯学習審議会第１回定例会 第 34 期三鷹市社会教育委員会議第１回定例会
日　時	令和７年６月 26 日（木）　18 時 30 分～20 時 30 分
場　所	三鷹市教育センター
出席委員 （15 人）	田中雅文　矢崎喜美子　齋藤智志　廣瀬圭子　三橋優子　生田美秋　内田直子　塚田明美　植田幾代　丸岡近賀子　青木睦　松田秀穂　加藤綾子　髙橋千恵　尾又一実
欠席委員 （３人）	山口和昭　間部豊　藤橋初美
行政職員 （８人）	スポーツと文化部長　大朝摂子 スポーツと文化部調整担当部長・スポーツ推進課長　平山寛 教育部調整担当部長・総務課長　寺田真理子 生涯学習課長　八木隆 地域学校協働課長　越政樹 生涯学習課生涯学習係長　森宏樹　同主査　三内紀子　同主任　齊藤満里奈
会議の公開・非公開	公開
傍聴人数	０人

開会

１　委嘱式

河村市長から、委嘱状の交付を行った。

２　委員紹介

委員一人ひとり、自己紹介を行った。

３　会長・副会長の選出

三鷹市生涯学習審議会条例第５条第２項及び三鷹市社会教育委員条例施行規則第３条第１項の規定に基づき、委員の互選により、会長に田中委員、副会長に矢崎委員が選出された。

４　市長挨拶

【市長】多様な経歴を持つ委員が率直に意見交換し、「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」生涯学習が実現できるような全体像を共有したい。昨年度策定した「三鷹市生涯学習プラン 2027」は委員の提言を踏まえたものであり、今後も継続的に改定を行う。事務局の方で円滑な議論の場の確保に努めて行くので、実りある審議をお願いしたい。

（市長退席）

５　会議

(1) 行政職員の紹介を行った。

(2) 事務局より、三鷹市生涯学習審議会・社会教育委員会議の概要について説明を行った。

(3) 事務局より委員の出席状況、傍聴者の有無、会議要旨の公開について報告し、配付資料の確認を行った。

６　議題

(1) 社会教育関係団体補助金の支出について（三鷹市公立学校ＰＴＡ連合会）

【事務局】社会教育関係団体補助金等について、社会教育法第 13 条に定められている「社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、社会教育委員の会議等の意見を聴いて行われなければならない」という規定に基づき、社会教育委員の皆様にご意見をお伺いするものである。

（地域学校協働課長より構成団体、趣旨・目的、補助金額について説明を行った。）

【委員】前年度と比較して、予算上の増減はあるか。

【地域学校協働課長】調査委員会において、今年度から小中学校代表者の連絡会議を行う際に、会議費用を計上することとなった。広報委員会費と広報誌の製作費を減らし、調査事業費を１万円計上している。

（地域学校協働課長退席）

(2) 「三鷹市生涯学習プラン 2027」主要事業の達成度を測る指標（KPI）に係る令和６年度実績報告について

事務局より、「三鷹市生涯学習プラン 2027」の概要説明及び令和６年度の KPI 実績に関する数値の報告を行った。

【委員】計画スタート時期と報告年度の関係について説明が必要だと思われる。

【スポーツと文化部長】本計画は令和６～９年度の４年間を対象とする。計画期間に策定年度（令和６年度）を含めており、実際の事業開始は令和６年４月からである。策定時の基準値は主に令和５年度（項目によっては令和４年度）の実績を用いている。資料４については毎年度右側に実績を追加し、令和９年度まで推移を示したうえで次期計画の策定へとつなげていく。

【委員】数値の増減理由とその具体的説明のほか、施策内容の報告についても必要である。

【生涯学習課長】基本施策１の場合、生涯学習センターの学習スペース開放事業、各コミュニティ・センターの子ども向け事業が大きな増要因となっている。

【会長】基本施策２の学習スペース開放事業と基本施策１の子ども向け事業は一部重複しているか。

【生涯学習課長】そのとおりである。

【スポーツと文化部長】学習スペース開放事業の利用者には高校生、大学生や成人も含まれ、年度末は受験勉強中の高校生が最も多い。一方で小中学生も利用しているため、子ども向け事業の参加者数欄には総利用者（例：令和６年度 9,428 人）のうち小中学生分のみを抽出して記載している。

【委員】表を見る際に重要なのは達成率そのものではなく、設定した目標が妥当だったか、未

達成の要因は何かを検討することである。結果だけを評価しても意味はなく、数字を手がかりに原因を分析し共有することに意義がある。
【会長】そのとおりである。目標達成度を見るだけでなく、増減の要因分析が重要である。特に、リカレント教育の参加者が伸びない理由は何か。
【生涯学習課長】リカレント教育の集計対象の一つである英会話講座の講座数が減ったためである。
【会長】そうすると、数値は「供給量（実施回数・定員）」と「参加率」を合わせたものとなる。子ども向け事業やコミュニティ・センターの事業についても、供給量が増えたのか参加率が増えたのか確認したい。
【生涯学習課長】子ども向け事業参加者が急増したのは、コロナ収束後に各コミュニティ・センターが事業を再開した影響が大きい。
【スポーツと文化部長】策定時の実績は令和５年度中心であり、コロナ禍の影響で開催側も参加者も慎重だったため数値が抑えられていた。令和６年度は制限緩和と参加者枠の多いイベントにより参加者が急増したコミュニティ・センターもあり、大幅な伸びが見られる。実績の変動については、講座・イベントの供給量や内容の変化、そして同じ内容でも参加率が高まる場合の二段階の要因がある。増減理由を精査し、新規事業の設計や目標達成策に活用する視点が必要だ。
【委員】基本施策２の市民大学総合コースの満足度はどのように算出しているのか。
【生涯学習課長】受講者アンケートにおいて、５段階評価のうち「大変満足」「満足」を合算し、満足度 91％と算出している。
【スポーツと文化部長】今回のＫＰＩ資料を初めて作成したが、十分ではないところがあった。目標値との差を示すだけでは議論ができず、増減の理由を記入する欄を設けるなど、今後は年度の特徴や変動要因も示すようにしていかなければならない。例えば、ＳＮＳ閲覧数の大幅減は、今回の KPI 作成を行うことで、業務繁忙により投稿数が減少したことが原因と判明した。数値化したことにより日常的な発信努力やコンテンツ改善の必要性が見えるようになった。
【会長】委員の意見を受けて常に改善を図る点は評価できる。数値の増減だけでなく要因と課題を分析しているのはよい。
【委員】具体的な施策や目標値は誰が決めているのか。
【スポーツと文化部長】事務局が案を作成し審議会で議論した後、市長が最終決定を行う。
【委員】審議会は議論の場であり、決定権はないということか。
【生涯学習課長】審議会へ諮問し、答申をいただき、最終的に確定する。
【スポーツと文化部長】補足する。事務局が案を作成し審議会で議論・意見集約を行うが、行政計画の最終決定権は市長にあり、市長の責任で確定する。ただし市は審議会の議論・提言を最大限反映して計画を策定する。
【委員】この場で多数決を行うことはあるか。
【会長】三鷹市生涯学習審議会条例第２条にあるように、審議会は市長からの諮問に対し審議をし、答申という形で意見の提示を行う。行政計画であるため最終決定は市長となる。答申を作る際に意見が割れれば最終的に多数決を行うこともある。また、諮問がなく審議会として意

見書を作成することもあり、その際にも委員間で意見が割れれば多数決で意思決定することになる。
【委員】令和６年度以降の実績が上がったことは理解した。４年間（令和６～９年度）の計画期間中は当初設定した目標値は変えずに、目標値に対して毎年達成度を確認するのか。
【生涯学習課長】目標値は計画期間（令和６～９年度）の最終年度を想定して設定しており、期間中は達成済みでも数値は改定しない。ただし達成後も取組を充実させていく。
【委員】最終的に実績値はグラフのような形で出ることになるか。
【スポーツと文化部長】目標値を超えても満足せず、増やすべきものはさらに伸ばし、減った方がよいものはより減らすことを継続的に追求する。年度ごとの事業内容で数値は上下し得るため、達成後も維持・向上を意識し、毎年度の実績で状況を確認しながら実施していく。
【委員】働き世代向けリカレント教育の参加者数は減少しているが、人口減少で母数自体も縮小するため、800 人という目標は実態と乖離する恐れがある。人数だけではなく、母数に対する参加率も調査してもよかったのではないか。また、働き世代は業務が多忙で学習時間を確保しにくい現状がある。忙しい世代でも参加しやすい提供方法を検討・導入するなど、今後の計画ではなく運用面で活かしていけるとよい。
【生涯学習課長】リカレント教育の数値については上げづらいと認識しているところである。参加者数の話に戻り恐縮だが、補足すると、英会話講座の講座数の減少により、結果として数値は減少したが、その他の事業では若干の増加がみられる状況となっている。
【委員】基本施策３の「みたか地域ポイント」は名称だけでは内容が分かりにくいので、新任委員向けに事業概要の説明が必要である。結果は目標を大きく上回っており、事業が順調に見える。その好調な要因について、事務局の分析を確認したい。
【生涯学習課長】みたか地域ポイントは、ボランティア活動をした市民に付与され、市内で買い物などに使うことができる。この数値は「三鷹まるごと博物館事業」のボランティアに対して付与した数値である。ポイント付与開始が令和５年 10 月だったため、令和５年度実績は半年分、令和６年度は１年間分となっている。付与回数が増えたため数値が大きく伸びた。
【委員】今回の増加は、特定の事業に連動した一時的な伸びであり、みたか地域ポイント自体が広がったわけではない可能性もある。数値だけを見ると誤解を招くため、実績値の背景を示したほうが実態を正確に把握できる。
【スポーツと文化部長】令和５年度の実績が半年分だったため、令和６年度の増加は集計期間の差によることは理解すべきである。基本施策３について、「学びと活動の循環」を測る指標として、ボランティア活動に付与する地域ポイントを採用した。市全体では他の活動にもポイントは付与されているが、生涯学習課が把握できるのは生涯学習関連の活動のポイントのみである。今後は学びに関するボランティアの数を増やすか、各事業の参加者を増やすか、または両方により数字を上向かせることを目標としている。
【副会長】経験上、数値だけを追うと本来の目標を見失いがちになる。適切な評価項目を設定する難しさと、「この指標で本当に目的が測れているのか」を常に検証する必要性を痛感している。示された数値が基本目標のどこに結び付く課題なのか、問題提起やアイデアを期待している。三鷹市の生涯学習事業は非常に多岐にわたるが、「生涯学習プラン 2027」とどの程度連

動し、どこまで反映されているのか（反映率・連動性）も示してほしい。
【スポーツと文化部長】２点お答えする。指標設定について、KGI／KPI と主要事業指標をセットで組み込んだのは今回の基本計画からで、生涯学習プランでは初の試みである。「定期的に数値を取得できるか」、「施策を代表できるか」を考慮しながら選定したが、４年間運用した後に指標が有効か判断したい。今期は検証期間として数字を吟味してほしい。生涯学習事業情報の達成度についてだが、冊子は年４回発行し各課における事業を掲載しているが、紙媒体の制約上、実施時期の問題で載せることができないものもある。数字の形で示すのは難しいが、プランの個別施策には冊子掲載事業の大部分を対応づけてある。すべてが１対１対応ではないものの、ほぼ反映されていると理解してほしい。
【会長】行政計画では量的指標が主流になっているが、数値に表れない要素も多い。議論の中でそのような点も含めて計画の評価をしたい。

７　報告

事務局より「第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会」の開催案内を行った。

８　その他

(1) 事務局より新任の委員に対し、メールアドレスの登録依頼を行った。
(2) 次回の日程について案内を行った。
日時：令和７年 10 月 23 日（木）　18 時 30 分から
場所：生涯学習センター　ホール

―閉会―